

⑩【単年度】次世代モビリティ(グリーンスローモビリティ)と歩行者、自転車、車の安全な共存空間づくりに関する実証実験(兵庫県三田市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- ・ グリーンスローモビリティを活用した、歩行者と自転車、車が安全に共存できる新たな道路空間づくりを検証する。
- ・ 次世代モビリティの走行による事例を創出し、安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインに反映される可能性もあり、参考事例となる可能性が高く、推奨すべき取組みとなること。

2. 実験内容、実験結果

①グリスロ実証実験

⇒期間中(45日間)の延べ乗車人数は943名、1日平均21名が利用し、昨年度の平均利用者数(1日7名)を上回る

②安全対策①<車両接近周知システム>

⇒車両接近を検知した際に横断歩道エリアに人がいた件数は4件、誤作動は0件

③安全対策②<路面標示>

⇒沿線住民アンケートより、路面標示について33%が「知っていて、注意して歩行するようにした」と回答

⇒ドライバーヒアリングより、走行の際に当該標示を特に意識していなかったと回答多数



グリスロ走行状況

3. 意見と検討、対応方針

意見

需要や施設の配置等の様々な観点からルートの検討を進めてほしい。
通行許可が下りた区間を通行ルートとして設定していると思うが、利用者の意見も踏まえ、生活空間を通る等、利便性を意識したルート設定にした方がよい。
坂が多い場所なので、移動がしやすくなるような工夫に取り組む必要がある。

実装に向けてはグリスロ運行だけでなく、小売や医療等の他業種との連携した地域に応じた体制を目指して、交通を越えた発想でサービスとして検討していく必要がある。

意見に対する検討、対応方針

ルート設定については、昨年度の実証段階から地域と検討を重ねてきたものである。今年度は、高齢者の移動(買い物・病院等)が多い午前中を中心としたダイヤ設定、地域の活動拠点であるコミュニティセンターや子育て世代が多いエリアのルート見直しを実施。平日のみでなく土曜日も運行し、様々な世代の利用検証も実施。

実装にあたっては、グリスロ運行だけではなく、沿線商業施設とのサービス連携や地域からの協力(協賛金・人的リソース)も含めて、地域として価値を見出せるよう検討する。

⑩【単年度】次世代モビリティ(グリスロモビリティ)と歩行者、自転車、車の安全な共存空間づくりに関する実証実験(兵庫県三田市)

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
利用者数	リピーターの維持・増加(ルート・ダイヤ・運行曜日等見直し) 新規利用者の獲得(広報活動等グリスロサービスに触れる機会の創出)
採算性	運賃の有償化、協賛金の設定、ドライバー確保
費用対効果及び他の手法の検討	導入場所及び費用対効果の検証、他の手法による安全対策の検討 ドライバーの安全運転スキル向上による対策の検討

5. 今後のスケジュール

- R6年度 モデル地区の確定、利用者確保の取組み、有償化の検討、安全対策の検討
- R7年度 実装に向けて関係者協議(道路管理者、警察)、車両確保

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ グリスロ等次世代モビリティの自歩道走行の取扱いについて検討する必要がある。
- ・ 安全空間に資する自歩道走行の安全対策指針・運用について検討する必要がある。